

津上英輔教授経歴

学歴

- 1955年 9月 6日 東京都に生まれる
- 1974年 3月 私立麻布高校卒業
- 1975年 4月 東京大学文科 III 類入学
- 1977年 4月 同大学文学部進学（美学芸術学専修課程）
- 1979年 3月 同卒業
- 1979年 4月 東京大学大学院人文科学研究科修士課程入学（美学芸術学専門課程）
- 1982年 3月 同修了
- 1982年 4月 同博士課程進学
- 1985年10月 西ドイツ政府 DAAD 給費留学生としてフライブルク大学に留学（音楽学、古典文献学、哲学専攻。給費は1986年 9月まで）、東京大学は休学
- 1987年 2月 帰国、東京大学復学
- 1987年 3月 東京大学大学院博士課程満期退学
- 1992年 1月 東京大学大学院人文科学研究科より課程修了による博士（文学）の学位を取得

職歴

- 1987年 4月 同志社女子大学学芸学部音楽学科研究助手（音楽学）
- 1990年 4月 同専任講師
- 1993年 4月 成城大学文芸学部芸術学科助教授（美学）
- 1994年 4月 成城大学大学院文学研究科担当 現在に至る

1999年 9月-2000年 8月 イェイル大学訪問研究者 (visiting scholar)
2000年 4月 成城大学文芸学部教授 現在に至る
2001年 4月-2005年 3月 成城大学大学院文学研究科美学美術史専攻主任
2006年 3月-9月 ストックホルム大学客員教授 (visiting professor) と
して音楽学の連続講義を担当
2008年 4月-2010年 3月 成城大学文芸学部芸術学科主任
2010年 4月-2011年 3月 成城大学共通教育研究センター長
2013年 4月-9月 ストックホルム大学メディア研究学部客員教授 (visiting professor)
2014年 4月-2015年 3月 成城大学文芸学部芸術学科主任 (岩佐氏の残存期間)
2017年 4月-2019年 3月 成城大学大学院文学研究科美学美術史専攻主任
2019年 4月-2023年 3月 成城大学大学院文学研究科長

非常勤講師歴

大阪音楽大学 (1992年度)、青山学院女子短期大学 (1993年度)、国立音楽大学および同大学院 (1994-1999、2001-2004、2007年度)、東京大学文学部および同大学院 (1995-2004、2006-2020年度各前期または後期)、東京都立大学人文学部および同大学院 (1996-1997年度)、東京女子大学文理学部 (1997年度)、日本女子大学文学部 (1997年度後期)、大阪大学文学部および大学院 (集中講義 2002、2004年度)、岡山大学哲学科 (集中講義 2004年度)、上智大学哲学科 (2005-2006年度)、早稲田大学文学部／文化構想学部 (2008-2009年度前期)、東京藝術大学音楽学部 (2010、2014-2022年度)、慶應義塾大学文学部および大学院 (2016-2021年度前期、2022-2023年度)、九州大学文学部および大学院 (集中講義 2017年度)、放送大学客員教授 (2021年度より現在に至る)

学会などでの活動歴

美学会（1979年入会、1996-1999年幹事、1999-2019年委員、2007-2010、2013-2019年副会長）

日本音楽学会（1982年入会、1993-1997、1999-2003、2005-2009年委員）

日本西洋古典学会（1987年入会）

International Musicological Society（1990年入会）

International Association of Aesthetics（1993年入会）

15th International Congress of Aesthetics（第15回国際美学会議、幕張、2001年 財務局長）

第54回美学会全国大会実行委員長、若手美学研究者フォーラム実行委員長（2003年）

第1回成城大学国際芸術学コロキウム主宰（2003年）

博士論文審査歴

大愛崇晴（2009年度 東大美学：副査）、小宮山晶子（2012年度 成城大学：主査）、赤塚健太郎（2012年度 成城大学：主査）、佐藤仁（2016年度 成城大学：副査）、青田麻実（2018年度 東大美学：副査）、井上果歩（2021年度 芸大楽理：副査）、河合大介（2024年度 成城大学：主査）、柳川太希（2024年度 成城大学：主査）、小倉健太郎（2024年度 成城大学：主査）、小河原あや（2025年度 成城大学：主査）、柳澤広美（2025年度 成城大学：主査）

研究業績

著書

『あじわいの構造：感性化時代の美学』（2010年 春秋社）

『メイのアリストテレース 『詩学』 解釈とオペラの誕生』 (2015年 勁草書房)
『危険な「美学」』 (2019年 集英社インターナショナル新書)
Girolamo Mei: A Belated Humanist and Premature Aesthetician (2021年 勁草書房)
『美学の練習』 (2022年 春秋社)

編書 (ラテン語テキスト校訂)

Girolamo Mei, *De modis* (1991年 勁草書房)

共編書

Selected Papers of the 15th International Congress of Aesthetics (第15回国際美学会議報告書) (2003年 published by the Organizing Committee of the 15th International Congress of Aesthetics, Tokyo)

Art as Representation of the World (2004年 第1回成城大学国際芸術学コロキウム報告書、成城大学文学研究科)

『美学の事典』 (2020年 丸善出版 編集副委員長および第8章編集)

『新訂 西洋音楽史』 (2021年 赤塚健太郎と共編 放送大学)

学位論文

修士論文 「宇宙の調和：プトレマイオス『ハルモニア論』III / 8-16 の解釈」 (1981年度 東京大学)

博士論文 「Girolamo Mei, *De modis* : 校訂本文と日本語訳および解釈」 (1992年 課程修了による博士 (文学・東京大学))

学術雑誌論文

「プトレマイオスの宇宙調和論：4つの音高概念」 (1983年 『音楽学』 29:1、63-75頁)

「プトレマイオスの旋法エートス論」 (1983年 『美学』 135、32-41頁)

「プトレマイオス『ハルモニア論』 p. 108. 19-20 (Düring) について：本文修正の試み」 (1983年 『研究』 2、223-236頁)

- 「アリスティデース・コインティリアノスの音楽論」(1984年 『研究』 3、121-144頁)
- 「プラトーン『パイドロス』243D6 ἐκ τῶν ὁμοίωνについて」(1985年 『研究』 4、85-90頁)
- 「ジローラモ・メイ『古代旋法論』：バロック音楽様式の成立に対するその意味」(1987年 『美学』 150、24-36頁)
- 「ポエティウスによるギリシャ・トノス理論の誤解と中世旋法理論に対するその影響」(1987年 『同志社女子大学学術研究年報』 38、297-310頁)
- 「ジローラモ・メイ *De modis*：その古文書学的研究」(1987年 『研究』 6、1-32頁)
- 「プトレマイオスのトノス論」(1)、(2) (1988、1989年 『同志社女子大学学術研究年報』 39、132-151頁 および 40、145-167頁)
- 「古楽の本質：音楽と現代の文化について古楽が明らかにしたもの」(1990年 『現代思想』 18:13、142-153頁)
- 「模倣と表現の一致：G. メイの音楽観と近代芸術概念」(1994年 『成城大学文芸学部四十周年記念論文集』 166-180頁)
- 「ヴィンチェンツォ・ガリレイと古代楽譜断片：西洋音楽における古典の伝統の一断面」(1994年 『美学』 177、31-41頁)
- 「古代人の模倣と自然の模倣：ヴィンケルマン『ギリシャ人の絵画・彫刻作品の模倣についての考察』における自然の概念」(1995年 成城大学『美学美術史論集』 10、153-170頁)
- “Influence of Aristotle’s *De anima* on European Musical Sensitivity”, (1996年 *Revista de musicología*, 41, 1993 = 第15回国際音楽学会大会 (1992年、マドリッド) 記録、pp. 2181-2186)
- 「「この人はあの人だ」(アリストテレス『詩学』第4章)：現実開示の途としてのミーメーシス」(1997年 成城大学『美学美術史論集』 11、45-69頁)
- 「Si vero musica/mathematica: グロケイオ『音楽論』におけるアリストテレス主義」(藤田一美と共同執筆 1997年 『美学藝術学研究』 15、188-202頁)
- 「諸天体の構造的響和：プトレマイオスの宇宙調和論」(1997年 今道友信編『精神と音楽の交響』音楽之友社、47-76頁)

「ジローラモ・メイ『古代旋法論』：内容の分析的概観」（1997年 同志社女子大学『総合文化研究所紀要』14、97-107頁）

「τὴν τῶν τοιοῦτων παθημάτων/μαθημάτων κάθαρσιν: アリストテレス『詩学』の「カタルシス」」（1998年 『成城文芸』161、212-222頁）

「西洋音楽における古典の伝統と古代・中世の音楽論」（1998年 科学研究費研究成果報告書 研究題目：18世紀の西洋音楽における古典の伝統 1-18頁）

“Vincenzo Galilei and Notated Examples of Ancient Music: An Aspect of Classical Tradition in Western Music”（1998年 *Aesthetics* 8, pp. 93-102）

「学びのもたらす解放：アリストテレス『詩学』の「浄め」^{きよめ}」（1998年 『美学』194、1-11頁）

「ボエティウス『音楽教程』における musica の概念」（1999年 成城大学『美学美術史論集』12、145-162頁）

「「大きな過ち」：アリストテレス『詩学』第13章における悲劇性」（2001年 成城大学『美学美術史論集』13、75-92頁）

“Aristoteles Musicus: Causality and Teleology in Johannes de Grocheio's *Ars musicae*”（2001年 *JTLA* 25, pp. 111-124）

“In What Sense is the ‘Real World’ Real? Re-interpreting Aristotle's Discussion of Poetry Compared with History”（2003年 第15回国際美学会議報告書 *Selected Papers*, pp. 434-439）

「西洋古代と中世の音楽論」（2004年 根岸一美・三浦信一郎編『音楽学を学ぶ人のために』世界思想社、18-32頁）

“Art as *mimesis*: Presenting a World/Representing the World”（2004年 *Art as Representation of the World*= 第1回成城大学国際芸術学コロキウム報告書、pp. 1-12）

“τὴν τῶν τοιοῦτων μαθημάτων κάθαρσιν: *katharsis* in Aristotle's *Poetics*”（2005年 科研費報告書）

「»factum est« heißt »geschehen ist«：ハイデガー『芸術作品の根源』への一注釈」（2005年 成城大学『成城美学美術史』11、5-13頁）

「過去の現前：感性的範疇としての *nostalgia*」（2005年 『美学』222、1-13頁）

“Presence of the Past: Nostalgia as an Aesthetic Category”（2006年 『第12回

日韓美学研究会報告書』、pp. 221-226)

「点が点に対する：初期対位法理論に見る *contrapunctus* の比喩性」(2006年『音楽学』52:1、32-44頁)

「感性的認識の完成：バウムガルテン『美学』における美の説明」(2008年『成城美学美術史』14、1-13頁)

「感性的営為としての旅—観光美学の構築に向けて」(2008年『美学』232、2-14頁)

「対位法史の中のジローラモ・メイ」(2008年 東川清一編『対位法の変動・新音楽の胎動：ルネサンスからバロックへ 転換期の音楽理論』春秋社、93-113頁および同書序文3-5頁)

「傲慢という名の過ち：アリストテレス『弁論術』第2巻1378b23-25における「ヒュプリス」」(2009年『成城美学美術史』15、1-13頁)

「懐かしさと *nostalgia*：比較美学から感性史へ」(2010年 成城大学『美学美術史論集』18、140-164頁)

「運動を管理する音楽：服部正作曲<ラジオ体操第一>の分析」(2010年『成城美学美術史』16、1-15頁)

「感性的質の生成構造、または感性史の試み」(2010年『美学』236、1-13頁)

「Souvenir—観光体験の額縁」(2012年 西村清和編『日常性の環境美学』勁草書房、228-249頁)

「“哲学と文献学の新たな仲違い”：プラトーンの詩人論を解釈するコリンウッド」(2012年『成城美学美術史』17・18、1-15頁)

「*sensus communis* 再考：共感に立つ美学に向けて」(2012年 第62回美学会全国大会『たそがれフォーラム発表報告集』電子版、14-26頁)

「アリストテレス『詩学』の資料伝承とヴェットーリによる *ῥυθμός* 概念の誤解」(2013年『成城美学美術史』19、1-19頁)

「もう一つの『詩学』注釈：メイ筆ヴェットーリ宛手紙2通(1559年)」(2013年 成城大学『美学美術史論集』20、125-179頁)

「メイのプトレマイオス旋法論解釈」(2016年『成城文芸』233・234、97-124頁)

「記述理論から規範美学へ—メイの旋法体系と古代音楽像」(2016年『美

学』248、109-120頁)

「人はなぜ旅に出るのか：現代日本映画における旅表象に徴して」(早川恭只と共著。2016年 『成城文芸』237・238、186-170頁)

「話す人を歌で摸倣する：メイの古代悲劇像とペーリのレクタティーヴォ理論」(2017年成城大学『美学美術史論集』21、1-24頁)

「「美に生きる」ことの危険：高村光太郎の場合」(2017年 『成城文芸』240、141-159頁)

“Two Centuries Ahead of Batteux: Girolamo Mei’s System of the Arts” (2017 *e-book Proceedings of ICA 2016*, Seoul National University, pp. 469-473)

「古代理論を近代思想に仕立て直す—ジローラモ・メイの芸術体系論—」(2018年 『美学』252、13-24頁)

「メイ作エピグラム「フェュッリスについて」」(2020年 成城大学『美学美術史論集』22、(1)-(23)頁)

「メイ美学思想の集大成としてのカタルシス解釈」(2020年 『成城美学美術史』26、19-43頁)

“Remaking an Ancient Poetic Theory into a Modern Aesthetic Thought: Girolamo Mei’s System of the Arts” (2021 *Aesthetics* 23/24, pp. 14-26)

“Girolamo Mei’s Interpretation of Tragic Katharsis as Culmination of His Aesthetic Thought” (2022 *Culture and Dialogue* 9, pp. 3-30)

Mei’s Style of Latin Prose in *On the Modes* (2022年 『成城文芸』260、pp. 115-134)

「ポエーティウスはプトレマイオス旋法論を誤解していない(か?)：メイ『古代旋法論』第2巻への一注釈」(2024年 『成城文芸』264、72-94頁)

「ケーベルの美学講義」(2024年 『ケーベル会誌』5、55-71頁)

「澤柳政太郎の真善美思想」(2025年 『成城教育』206、62-82頁)

書評

F. V. ハント 『音の科学文化史 ピュタゴラスからニュートンまで』(1985年 『音楽学』31:2、150-151頁)

Claude V. Palisca, *Humanism in Italian Renaissance Musical Thought* (1987

年 『音楽学』 33:3、227-229頁)

渡辺裕『聴衆の誕生 ポスト・モダン時代の音楽文化』(1990年 『美学』 163、69-74頁)

M. L. West, *Ancient Greek Music* (1995年 『西洋古典学研究』 43、122-124頁)

講演記録、エッセイなど

「お酒と音楽」(2011年 日本音楽表現学会第9回「甘露」大会基調講演、『音楽表現学』 9、79-84頁)

「人と音楽—歌うということ」(2019年 『成城教育』 184：特集「成城と音楽」、5-11頁)

「悪の美学」(2020年 kotoba 39「悪の研究」106-109頁)

「娯楽か芸術か」(2022年 kotoba 47「ゴッドファーザー」74-77頁)

「アリストテレス『詩学』における上演効果の論点：メーイの解釈を補助線とする素描」(2022年 樋笠勝士編『フィクションの哲学：詩学的虚構論と複数世界論のキアスム』月曜社、85-90頁)

訳書

プトレマイオス^{コスモグラフィア}『宇宙誌』Cod. Urb. Lat. 277解説書(1984年 全9章中6章の翻訳、原文ドイツ語、岩波書店)

D. J. グラウト・C. V. パリスカ『新西洋音楽史』(上巻、中巻：1998年、下巻：2001年 戸口幸策・寺西基之と共訳、音楽之友社)

学会発表

1982年7月 日本音楽学会関東支部例会(会場：東京芸術大学)「プトレマイオスの宇宙調和論：4つの音高概念」

1983年4月 美学会東部会昭和57年度第5回例会(会場：学士会分館)「プトレマイオスの旋法エートス論」

1992年4月 国際音楽学会第15回大会(会場：マドリッド)“Influence of Aristotle's *De anima* on European Musical Sensitivity”

1993年10月 美学会第44回全国大会(会場：慶應義塾大学)「V. ガリレーイ

と古代楽譜断片：西洋音楽における古典の伝統の一断面」

- 1995年 8月 国際美学会第13回大会（会場：フィンランド、ラハティ）
“*Mimesis and Mousike in Plato’s Republic: An Early Example of Aesthetics in Practice*”
- 1995年10月 美学会第46回全国大会（会場：東京大学）「プラトーン『国家』第十巻の詩論における「ミーメーシス」」
- 1997年10月 美学会第48回全国大会（会場：東京芸術大学）「学びのもたらす解放：アリストテレース『詩学』のカタルシス」
- 1998年 9月 国際美学会第14回大会（会場：スロヴェニア、リュブリャナ）
“*Really Illuminated: Mimesis in Aristotle’s Poetics*”
- 2001年 8月 国際美学会第15回大会（会場：幕張、神田外語大学）“*In What Sense is the Real World Real?: Re-interpreting Aristotle’s Discussion of Poetry Compared with History*”
- 2003年10月 美学会第54回全国大会（ポスターセッション、会場：成城大学）
「古代と近代の調停：オイラー『新音楽理論の試み』における調和と快」
- 2003年11月 成城大学第1回国際芸術学コロキウム “*Art as Mimesis: Presenting a World/ Representing the World*”
- 2004年 7月 国際美学会第16回大会（会場：リオ・デ・ジャネイロ）“*Longing for the Unchanged: The Nostalgic as an Aesthetic Category*”
- 2004年10月 美学会第55回全国大会（会場：京都工芸繊維大学）「過去の現前：感性的範疇としての nostalgia」
- 2007年10月 美学会第58回全国大会（会場：北海道大学）「感性的営為としての旅—観光美学の構築に向けて」
- 2009年10月 美学会第60回全国大会（会場：東京大学）「感性的質の生成構造、または感性史の試み」
- 2010年 8月 国際美学会第18回大会（会場：北京大学）“*The Evolution of Aesthetic Qualities: Toward a History of Aesthetic Sensibility*”
- 2010年11月 成城大学第2回国際芸術学コロキウム “*Topology of Aesthetics: Through a Comparison of Omiyage and Souvenir*”

- 2011年10月 美学会第62回全国大会（会場：東北大学）「Sensus communis 再考：共感に立つ美学に向けて」
- 2013年 5月 北歐美学会（The Nordic Society of Aesthetics、会場：Oslo University）“Rhythm as Dance: The Opera Form and the Manuscript Transmission of Aristotle’s *Poetics*”
- 2013年 7月 国際美学会第19回大会（会場：Krakow University）“The Birth of Opera from the “Media” of Tragedy: Aristotle’s *Poetics* and Its Creative Interpretation by G. Mei”
- 2013年11月 日本音楽学会第64回大会（会場：慶應義塾大学）。「古代悲劇の正統継承者としてのオペラ：アリストテレスからメイまで」
- 2014年10月 美学会第65回全国大会（会場：九州大学）「メイのとらえた悲劇のカタルシス」
- 2015年 9月 成城美学美術史学会第 1 回例会「芸術と娯楽：コリンウッドウッドの区分を越えて」
- 2015年11月 日本音楽学会第66回全国大会（会場：青山学院大学）「音楽理論から音楽美学へ：メイのプトレマイオス旋法論解釈と古代音楽像」
- 2016年 7月 国際美学会第20回大会（会場：ソウル大学）“Two Centuries Ahead of Batteux: Girolamo Mei’s System of the Arts”
- 2017年 3月 国際音楽学会第20回大会（会場：東京芸術大学）“Girolamo Mei Projecting the Image of Ancient Music in the Light of Aristotle’s Theory of Tragedy and Ptolemy’s System of Tonoï”
- 2018年 3月 成城美学美術史学会第 6 回例会「平和と美学」
- 2018年10月 美学会第69回全国大会（会場：関西大学）「詩作する人文主義者メイ：エピグラム「フュッリスについて」の分析から」
- 2019年 7月 国際美学会第21回大会（会場：Belgrad University）“Aesthetics of Tragic *Katharsis*: Girolamo Mei’s Interpretation”
- 2025年 9月 成城美学美術史学会第20回例会「『引き際の美学』における「美学」の転義用法」

被書評

De modis (1991) : 『音楽学』 37:1、1991、138-139頁 (金澤正剛筆) ; *Early Music History*, 11, 1992, pp. 303-313 (Claude V. Palisca 筆)

『あじわいの構造：感性化時代の美学』(2010) : 『美学』 239、2011、135-138頁 (春木有亮筆) ; 北海道新聞2011年3月20日号 (三浦佳世筆)

『メイのアリストテレース 『詩学』 解釈とオペラの誕生』(2015) : 『美学』 247、2015、142-147頁 (戸高和弘筆) ; 『音楽学』 61:2、2016、86-88頁 (片桐功筆)

『危険な「美学」』(2019) : 『週刊東洋経済』 6889、136-137頁 (インタビュー)
Girolamo Mei (2021) : 『図書新聞』 2021年5月29日号 (戸高和弘筆) ; 『音楽学』 67:2、2021、109-110頁 (金澤正剛筆) ; *Greek and Roman Musical Studies*, 12, 2024, pp. 323-329 (Mathilde Kaisin 筆)

『美学の練習』(2023) : 『週刊読書人』 2023年3月10日号 (齊藤基史筆) ; 『図書新聞』 3597、2023年6月24日 (春木有亮筆) ; 『美学』 263、2023、93-97頁 (杉山卓史筆)